

## 5 病院事業

### (1) 事業数及び経営規模

平成23年度における県内の市町村等が経営する病院事業の数は前年度と同数の18事業で、その病院数は前年度に比べ1病院減少し28病院となっている（このうち女川町は平成23年9月に病院事業を廃止している。）。

病院を経営主体別にみると、市営が17病院、町営が7病院、一部事務組合営が4病院となっている。

#### 【市営：7事業17病院】

仙台市、石巻市（3病院）、塩竈市、気仙沼市（2病院）、登米市（3病院）、栗原市（3病院）、大崎市（4病院）

#### 【町営：7事業7病院】

蔵王町、川崎町、丸森町、涌谷町、美里町、女川町、南三陸町

#### 【一部事務組合営：4事業4病院】

白石市外二町組合、黒川地域行政事務組合、加美郡保健医療福祉行政事務組合、大河原町外1市2町保健医療組合

経営規模別にみると、300床以上は前年度に比べ1病院減少し6病院、200床以上300床未満は前年度に比べ1病院増加し2病院、100床以上200床未満は前年度に比べ1病院減少し5病院、50床以上100床未満は前年度に比べ1病院減少し8病院、50床未満は前年度に比べ1病院増加し7病院となっている。このうち、300床以上の病院は、仙台市立病院（525床）、大崎市民病院本院（456床）、気仙沼市立病院（451床）、公立刈田総合病院（308床）、栗原市立栗原中央病院（300床）及びみやぎ県南中核病院（300床）で、いずれも地域の基幹病院として機能している。

なお、病院種別では、すべて一般病院に該当しており、このうち救急告示病院は、前年度に比べ1病院減少し26病院（28病院のうち、気仙沼市立本吉病院及び公立志津川病院以外の病院）となっている。

また、地方公営企業法の規定の全部を適用している事業は前年度と同数の6事業（仙台市、塩竈市、登米市、栗原市、大崎市及び涌谷町）、一部を適用している事業は前年度と同数の11事業、指定管理者制度（代行制）導入は前年度と同数の1事業（黒川地域行政事務組合）となっている。

第1表 経営主体別・経営規模別の状況

（単位：病院、事業、％）

経営規模	市 営		町 営		一 組 営		計		構 成 比		
	病院数	病床数	病院数	病床数	病院数	病床数	病院数	病床数	病院数	病床数	
300床以上	4	1,732	0	0	2	608	6	2,340	22.2	54.3	
200床以上300床未満	2	464	0	0	0	0	2	464	7.4	10.8	
100床以上200床未満	3	411	1	121	1	170	5	702	18.5	16.3	
50床以上100床未満	3	244	3	200	1	90	7	534	25.9	12.4	
50床未満	5	192	2	76	0	0	7	268	25.9	6.2	
計（病院）	17	3,043	6	397	4	868	27	4,308	100.0	100.0	
経営形態	全部適用	5		1				6		35.3	
	一部適用	2		5		3		10		58.8	
	指定管理者（代行制）					1		1		5.9	
	計（事業）	7		6		4		17		100.0	

（注）病院数は、年度末現在の数である。

## (2) 業務の状況

平成23年度末における病床数は4,308床で、前年度に比べ281床(6.1%)減少している。病院別では、女川町立病院が98床、公立志津川病院が88床、登米市立よねやま病院が53床、登米市民病院が42床の廃止又は減床を行っている。

患者数は、年延入院患者数が1,144千人で、前年度に比べ89千人(7.2%)減少し、年延外来患者数は2,146千人で、前年度に比べ31千人(1.4%)減少している。また、1病院当たりの1日平均入院患者数は128人で、前年度に比べ7人(5.8%)増加し、1病院当たりの1日平均外来患者数は328人で、前年度に比べ15人(4.8%)増加している。

病床利用率は71.8%で、前年度に比べ3.3ポイント低下している。このうち、一般病床利用率は72.0%で、前年度に比べ3.5ポイント低下している。

平成23年度末における職員数は4,738人で、前年度に比べ253人(5.1%)減少している。

第2表 病床数及び患者数の推移

年 度	項 目	19	20	21	22 a	23 b	対前年度比較	
							b - a c	(c/a) ×100(%)
	年度末病床数 A	4,863	4,773	4,709	4,589	4,308	▲281	▲6.1
年 延 患 者 数 (千人)	入 院	1,386	1,318	1,278	1,233	1,144	▲89	▲7.2
	外 来	2,406	2,303	2,271	2,177	2,146	▲31	▲1.4
一 日 平 均 患 者 数 (人/1病院)	入 院	126	125	121	121	128	7	5.8
	外 来	320	319	316	313	328	15	4.8
病 床 利 用 率 (%)		(79.1)	(76.0)	(75.2)	(75.5)	(72.0)	(▲3.5)	—
		77.9	75.6	74.4	75.1	71.8	▲3.3	—
	年度末職員数 B	5,018	4,938	4,892	4,991	4,738	▲253	▲5.1
	一床当たり 年度末職員数 B/A	1.03	1.03	1.04	1.09	1.10	0.01	—

(注)1 病床利用率欄の( )内は、一般病床分である。

2 平成22年度の年延患者数、一日平均患者数及び病床利用率は、東日本大震災の影響により算出できない南三陸町の数値を除いている。

## (3) 経営状況

### ア 損益収支の状況

病院事業の経常収益は803億29百万円、経常費用は813億円となっており、この結果、経常収支比率が98.8%となり、前年度に比べ1.6ポイント上昇している。

経常利益が生じた事業は18事業のうち7事業(病院数では28病院のうち11病院)で、前年度に比べ3事業増加(2病院増加)であり、その額は13億6百万円で、前年度に比べ5億92百万円(82.9%)増加している。

経常損失が生じた事業は11事業(17病院)で、前年度に比べ3事業減少(3病院減少)であり、その額は22億76百万円で、前年度に比べ8億14百万円(26.3%)減少している。

経常利益に特別利益を加えた総収益は817億17百万円、経常費用に特別損失を加えた総費用は861億64百万円となっており、この結果、総収支比率は94.8%で、前年度に比べ2.0ポイント低下している。

経常収支に特別損益を加減した純損益をみると、44億47百万円の純損失が生じており、前年度に比べ17億9百万円(62.4%)増加している。

累積欠損金を有する事業は18事業(27病院)で、前年度と同じ事業数(1病院減少)であり、その額は735億71百万円で、前年度に比べ44億47百万円(6.4%)増加している。

不良債務を有する事業は2事業で、前年度に比べ1事業減少であり、その額は5億58百万円で、前年度に比べ7億38百万円(56.9%)減少している。

第3表 病院事業の損益収支状況の推移

(単位:百万円、%)

項目	年 度	19	20	21	22	23	対前年度比較	
							b - a	(c/a)
					a	b	c	×100
総 収 益	A	80,297	79,658	81,739	83,681	81,717	▲1,964	▲2.3
経 常 収 益	B	79,687	78,977	81,007	82,942	80,329	▲2,612	▲3.1
医 業 収 益	C	71,881	70,064	71,704	73,698	70,201	▲3,497	▲4.7
うち料金収入		66,097	63,809	64,771	66,908	63,788	▲3,120	▲4.7
うち受託工事収益	D	0	0	0	0	0	0	—
特 別 利 益		610	682	732	739	1,388	649	87.7
総 費 用	E	86,056	83,796	84,217	86,419	86,164	▲254	▲0.3
経 常 費 用	F	85,596	83,348	83,949	85,318	81,300	▲4,018	▲4.7
医 業 費 用		81,452	79,429	80,204	81,642	77,888	▲3,754	▲4.6
うち職員給与費		37,768	37,378	37,514	38,098	37,331	▲767	▲2.0
支 払 利 息		2,151	1,971	1,807	1,714	1,619	▲95	▲5.5
特 別 損 失		460	448	268	1,101	4,864	3,764	342.0
経 常 損 益		▲5,910	▲4,371	▲2,942	▲2,376	▲971	1,406	▲59.2
経 常 利 益		611	355	573	714	1,306	592	82.9
経 常 損 失	G	6,520	4,727	3,515	3,090	2,276	▲814	▲26.3
純 損 益		▲5,759	▲4,138	▲2,478	▲2,738	▲4,447	▲1,709	62.4
純 利 益		504	504	821	931	1,424	492	52.8
純 損 失		6,263	4,641	3,299	3,669	5,871	2,202	60.0
累 積 欠 損 金	H	59,770	63,908	66,387	69,124	73,571	4,447	6.4
不 良 債 務	I	4,918	1,972	1,636	1,297	558	▲738	▲56.9
経 常 収 支 比 率 B/F		93.1	94.8	96.5	97.2	98.8	1.6	—
総 収 支 比 率 A/E		93.3	95.1	97.1	96.8	94.8	▲2.0	—
医業収益 に対する 割合	経 常 損 失 比 率 G/(C-D)	9.1	6.7	4.9	4.2	3.2	▲1.0	—
	累 積 欠 損 金 比 率 H/(C-D)	83.2	91.2	92.6	93.8	104.8	11.0	—
	不 良 債 務 比 率 I/(C-D)	6.8	2.8	2.3	1.8	0.8	▲1.0	—
総 事 業 数	J	19	19	18	18	18	0	0.0
経常損失を生じた事業数	K	17	15	15	14	11	▲3	▲21.4
累積欠損金を有する事業数	L	18	18	18	18	18	0	0.0
不良債務を有する事業数	M	3	3	3	3	2	▲1	▲33.3
総事業数 に対する 割合	経常損失を生じた事業数 K/J	89.5	78.9	83.3	77.8	61.1	▲16.7	—
	累積欠損金を有する事業数 L/J	94.7	94.7	100.0	100.0	100.0	0.0	—
	不良債務を有する事業数 M/J	15.8	15.8	16.7	16.7	11.1	▲5.6	—

(注) 不良債務＝流動負債－(流動資産－翌年度へ繰り越される支出の財源充当額)

イ 資本収支の状況

病院事業の資本的支出は233億97百万円で、前年度に比べ142億39百万円(155.5%)増加している。このうち、建設改良費は178億97百万円で、前年度に比べ140億47百万円(364.8%)増加しており、企業債償還金は51億50百万円で、前年度に比べ60百万円(1.2%)増加している。

資本的支出の財源は、外部資金が企業債や他会計出資金等の215億3百万円であり、内部資金(資本的収入が資本的支出に不足する分の補てん財源)が損益勘定留保資金等の18億94百万円である。

なお、資本的支出に占める建設改良費の割合は76.5%で、前年度に比べ34.4ポイント上昇しており、建設改良のための企業債償還金の割合は20.2%で、前年度に比べ30.8ポイント低下している。

第4表 病院事業の資本収支状況の推移

(単位:百万円、%)

項 目	年 度	19	20	21	22	23	対前年度比較	
							a	b
資本的支出	建設改良費	2,059	3,143	3,516	3,850	17,897	14,047	364.8
	企業債償還金	7,029	5,086	4,939	5,090	5,150	60	1.2
	うち建設改良費のためのもの	5,181	4,496	4,522	4,670	4,727	57	1.2
	その他	71	117	181	217	349	132	61.0
	計	9,159	8,346	8,636	9,157	23,397	14,239	155.5
同 上 財 源	内部資金	1,333	1,475	1,753	1,575	1,894	319	20.2
	外部資金	7,826	6,871	6,883	7,572	21,503	13,931	184.0
	企業債	3,212	5,854	1,846	2,328	14,029	11,701	502.7
	うち建設改良費のためのもの	1,364	2,285	1,846	2,328	14,029	11,701	502.7
	他会計出資金	4,360	3,506	3,931	3,993	4,559	565	14.2
	他会計負担金	90	200	735	320	368	48	14.9
	他会計借入金	0	0	0	0	0	0	—
	他会計補助金	57	120	152	148	729	581	393.2
	国・県補助金	112	118	126	975	1,222	247	25.3
	繰越事業財源(▲)	0	0	16	190	188	▲2	▲0.9
計	9,159	8,346	8,636	9,147	23,397	14,250	155.8	
財源不足額	0	0	0	10	0	▲10	皆減	
当年度同意等債で未借入 又は未発行の額	0	0	0	10	0	▲10	皆減	
実質財源不足額	0	0	0	0	0	0	—	

(注)1 内部資金=補てん財源合計額-前年度からの繰越工事資金+固定資産売却代金

2 外部資金=資本的支出額-(内部資金+財源不足額)

ウ 料金収入の状況

料金収入（入院・外来収益）は637億88百万円で、前年度に比べ31億20百万円（4.7%）減少している。

患者1人1日当たりの診療収入は、入院収益が36,789円で、前年度に比べ1,115円（3.1%）増加しており、外来収益が10,112円で91円（0.9%）増加している。

職員1人1日当たりの診療収入は、医師1人当たりでは282,201円で12,429円（4.2%）減少しており、看護部門1人当たりでは52,732円で1,349円（2.5%）減少している。

第5表 料金収入の状況の推移

（単位：円、%）

年 度	項 目	19	20	21	22 a	23 b	対前年度比較	
							b - a c	(c/a) ×100
	料 金 収 入（百万円）	66,097	63,809	64,771	66,908	63,788	▲3,120	▲4.7
内 訳	入院収益（百万円）	44,356	42,933	42,998	44,772	42,084	▲2,688	▲6.0
	外来収益（百万円）	21,740	20,876	21,773	22,136	21,704	▲432	▲2.0
患者1人1日 当たり診療 収 入	入 院	31,998	32,573	33,635	35,674	36,789	1,115	3.1
	外 来	9,034	9,068	9,588	10,021	10,112	91	0.9
職員1人1日 当たり診療 収 入	医 師	298,379	291,497	290,357	294,630	282,201	▲12,429	▲4.2
	看 護 部 門	53,568	51,994	52,231	54,081	52,732	▲1,349	▲2.5

（注）平成22年度の患者1人1日当たり診療収入及び職員1人1日当たり診療収入は、東日本大震災の影響により算出できない南三陸町の数値を除いている。

エ 他会計繰入金の状況

他会計からの繰入金（借入金を含む。）は、収益的収入（特別利益を含む。）に計上される繰入金が132億36百万円、資本的収入に計上される繰入金が56億56百万円、合わせて188億91百万円で、前年度に比べ16億41百万円（9.5%）増加している。

収益的収入に計上される他会計からの繰入金の総収益に対する割合は16.2%で、前年度に比べ0.9ポイント上昇しており、資本的収入に計上される他会計からの繰入金の資本的収入合計に対する割合は26.5%で、前年度に比べ31.9ポイント低下している。

病床1床当たりの他会計からの繰入金は428万8千円で、前年度に比べ52万9千円（14.1%）増加している。

第6表 他会計からの繰入金の状況の推移

（単位：百万円、%）

項 目		年 度					対前年度比較		
		19	20	21	22 a	23 b	b - a c	(c/a) ×100	
他 会 計 か ら の 繰 入 金	収 益 的 収 入 A	10,273	11,946	12,705	12,790	13,236	446	3.5	
	うち	負 担 金	8,413	9,386	9,932	10,196	9,458	▲738	▲7.2
		補 助 金	1,399	2,047	2,151	1,965	3,243	1,278	65.0
		特 別 利 益	462	513	622	630	536	▲94	▲14.9
	資 本 的 収 入 B	4,507	3,826	4,818	4,461	5,656	1,194	26.8	
	うち	出 資 金	4,360	3,506	3,931	3,993	4,559	565	14.2
		負 担 金	90	200	735	320	368	48	14.9
		借 入 金	0	0	0	0	0	0	—
		補 助 金	57	120	152	148	729	581	393.2
		計 (A+B) C	14,780	15,772	17,523	17,251	18,891	1,641	9.5
総 収 益 D	80,297	79,658	81,739	83,681	81,717	▲1,964	▲2.3		
資 本 的 収 入 E	7,838	9,845	6,883	7,639	21,335	13,695	179.3		
繰 入 率	総収益に対する繰入率 A/D	12.8	15.0	15.5	15.3	16.2	0.9	—	
	資本的収入に対する繰入率 B/E	57.5	38.9	70.0	58.4	26.5	▲31.9	—	
一 床 当 た り	収 益 的 収 入 (千円)	2,112	2,503	2,698	2,787	3,004	217	7.8	
	資 本 的 収 入 (千円)	927	802	1,023	972	1,284	312	32.1	
	計 (千円)	3,039	3,305	3,721	3,759	4,288	529	14.1	

※ 一床当たり繰入金 =  $\frac{\text{他会計繰入金}}{\text{年度末病床数}}$

オ 職員給与費の状況

職員1人当たり平均給与月額、医師が147万6,590円、看護師が44万3,400円、准看護師が46万9,958円、事務職員が50万8,972円、その他の職員が43万2,573円、全職員平均では55万2,007円で、前年度に比べ6,036円(1.1%)減少している。

第7表 職員別給与(平均給与月額)の状況の推移

(単位:円、%)

項目	年 度					対前年度比較	
	19	20	21	22 a	23 b	b - a c	(c/a) ×100
医 師	1,487,236	1,502,660	1,508,101	1,490,980	1,476,590	▲14,390	▲1.0
看 護 師	456,534	457,286	450,509	445,861	443,400	▲2,461	▲0.6
准 看 護 師	516,009	517,511	503,378	487,603	469,958	▲17,645	▲3.6
事 務 職 員	518,375	514,617	506,612	517,860	508,972	▲8,888	▲1.7
そ の 他 職 員	467,868	464,615	450,415	438,311	432,573	▲5,738	▲1.3
全 職 員	566,010	566,672	562,322	558,043	552,007	▲6,036	▲1.1

(注)1 管理者及び臨時職員を除く。

2 平均給与月額=(基本給+手当)/年間延職員数

3 平成22年度は、東日本大震災の影響により算出できない南三陸町の数値を除いている。

カ 業務量の状況

職員1人当たりの患者数は682人で、前年度に比べ17人(2.5%)減少しており、職員1人当たりの料金収入は1,321万8千円で、前年度に比べ14万8千円(1.1%)減少している。

病床100床当たりの職員数は、医師が14.7人、看護部門職員が78.5人、全職員では129.2人で、前年度に比べ4.1人(3.3%)増加している。

第8表 職員業務量の状況の推移

項目	年 度					対前年度比較		
	19	20	21	22 a	23 b	b - a c	(c/a) ×100(%)	
職員1人当たり患者数(人)	756	732	723	699	682	▲17	▲2.5	
職員1人当たり料金収入(千円)	13,172	12,904	13,200	13,366	13,218	▲148	▲1.1	
病床100 床当たり 職員数	医 師 (人)	13.0	13.2	13.7	14.3	14.7	0.4	2.8
	看 護 部 門 (人)	71.3	71.8	73.1	77.0	78.5	1.5	1.9
	全 職 員 (人)	113.4	115.6	119.1	125.1	129.2	4.1	3.3

(注) 平成22年度の職員1人当たり患者数は、東日本大震災の影響により算出できない南三陸町の数値を除いている。



キ 材料費の状況

薬品等の医療材料費は141億59百万円で、前年度に比べ16億25百万円（10.3%）減少している。これを料金収入に対する割合で見ると22.2%で、前年度に比べ1.4ポイント低下している。

医療材料費のうち、薬品費は78億53百万円で、前年度に比べ11億5百万円（12.3%）減少しており、患者1人当たりの薬品費は2,387円で、前年度に比べ220円（8.4%）減少している。

薬品使用効率は、投薬分が135.3%、注射分が86.6%、平均で104.0%となっており、前年度に比べ4.1ポイント上昇している。

第9表 料金収入に対する材料費の状況の推移

(単位:百万円、%)

年 度		19	20	21	22 a	23 b	対前年度比較		
							b - a c	(c/a) ×100	
料 金 収 入		66,097	63,809	64,771	66,908	63,788	▲3,120	▲4.7	
医 療 材 料 費		16,521	15,075	15,453	15,784	14,159	▲1,625	▲10.3	
う ち	薬 品 費	9,390	8,491	8,724	8,958	7,853	▲1,105	▲12.3	
	そ の 他 材 料 費	7,130	6,584	6,729	6,826	6,306	▲520	▲7.6	
料金収入 に対する 割 合	医 療 材 料 費	25.0	23.6	23.9	23.6	22.2	▲1.4	—	
	う ち	薬 品 費	14.2	13.3	13.5	13.4	12.3	▲1.1	—
		そ の 他 材 料 費	10.8	10.3	10.4	10.2	9.9	▲0.3	—
患 者 1 人 当 た り 薬 品 費 (円)		2,476	2,345	2,458	2,607	2,387	▲220	▲8.4	
薬 品 使 用 効 率	投 薬	124.5	126.2	123.8	123.1	135.3	12.2	—	
	注 射	102.3	100.8	85.4	85.4	86.6	1.2	—	
	平 均	111.7	110.6	99.7	99.9	104.0	4.1	—	

(注)1 平成22年度の患者1人当たり薬品費は、東日本大震災の影響により算出できない南三陸町の数値を除いている。

2 平成22年度の薬品使用効率は、東日本大震災の影響により算出できない石巻市立病院、石巻市立雄勝病院及び気仙沼市立本吉病院の数値を除いている。